

安全教育の目標・内容等

学校安全の目標

安全教育の目標

日常生活全般における安全確保のために必要な事項を実践的に理解し、自他の生命尊重を基盤として、生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うとともに、進んで安全で安心な社会づくりに参加し貢献できるような資質や能力を養う。

ア 知識、思考・判断
日常生活における事件・事故災害や犯罪被害等の現状、原因及び防止方法について理解を深め、現在及び将来に直面する安全の課題に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意志決定や行動選択ができるようにする。

教科
(小: 社・理・生・家庭・体育)
(中: 社・理・保健体育・技術・家庭)
(高: 地理歴史・公民・理科・保健体育・家庭・専門学科において開設される各教科) 等

特別活動

イ 危険予測・主体的な行動
日常生活の中に潜む様々な危険を予測し、自他の安全に配慮して安全な行動をとるとともに、自ら危険な環境を改善することができるようにする。

教科
(小: 生・家庭・体育)
(中: 保健体育・技術・家庭)
(高: 保健体育・家庭・専門学科において開設される各教科) 等

特別活動

ウ 社会貢献、支援者の基盤
自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できるようにする。

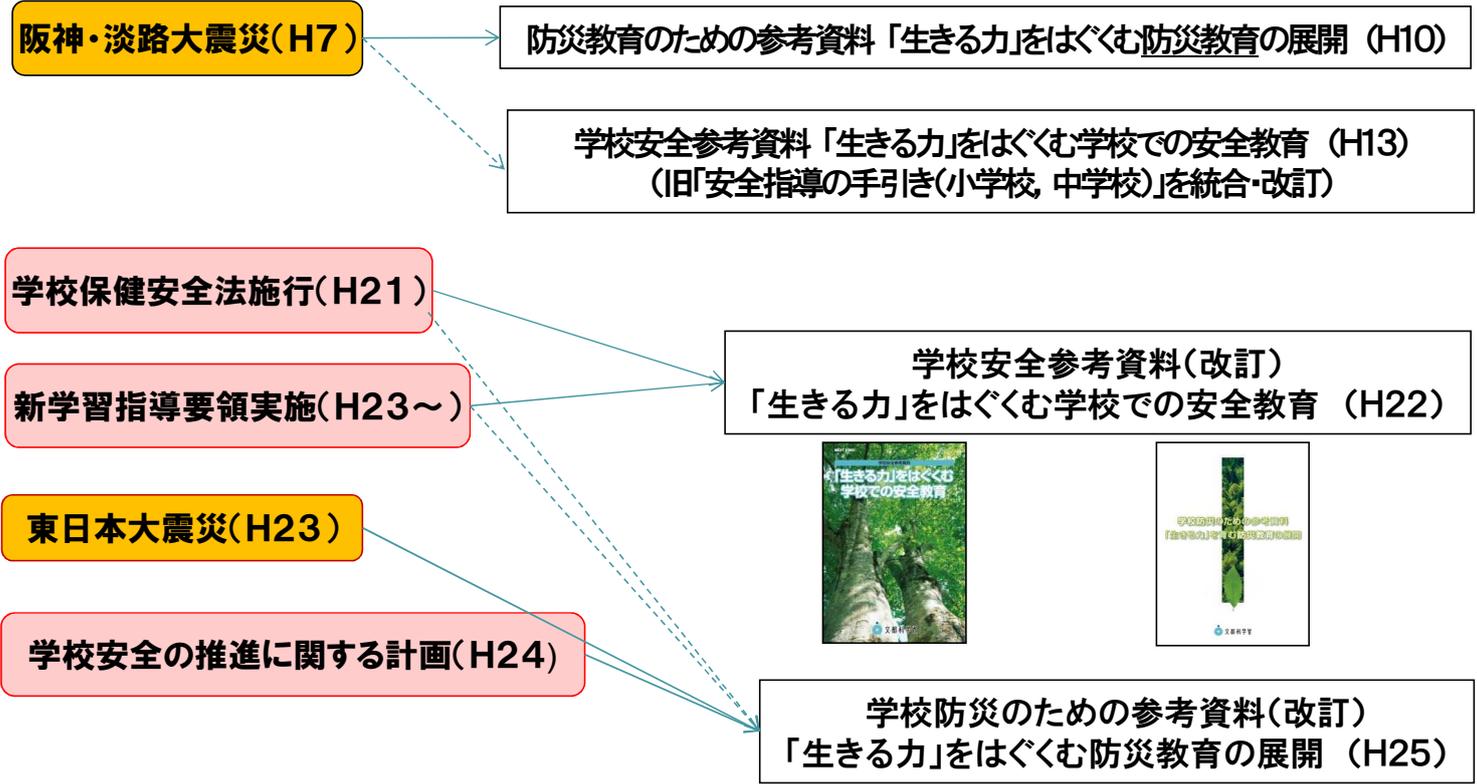
教科
(小: 社・生・家庭・体育)
(中: 社・保健体育・技術・家庭)
(高: 地理歴史・公民・保健体育・家庭・専門学科において開設される各教科) 等

道徳

特別活動

『「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育』(H22.3 文部科学省)

安全教育参考資料等の改訂



第1節 安全教育の目標、重点及び内容

1 安全教育の目標

学校における安全教育の目標は、概説すると、日常生活全般における安全確保のために必要な事項を実践的に理解し、自他の生命尊重を基盤として、生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うとともに、進んで安全で安心な社会づくりに参加し貢献できるような資質や能力を養うことにある。具体的には次の三つの目標が挙げられる。

- ア 日常生活における事件・事故災害や犯罪被害等の現状、原因及び防止方法について理解を深め、現在及び将来に直面する安全の課題に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意志決定や行動選択ができるようにする。
- イ 日常生活の中に潜む様々な危険を予測し、自他の安全に配慮して安全な行動をとるとともに、自ら危険な環境を改善することができるようにする。
- ウ 自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できるようにする。

2 各発達段階等における安全教育の重点

(1) 幼児

日常生活の場面で、安全な生活習慣や態度を身に付けることができるようにする。

また、危険な場所での行動や事件・事故災害時には、教職員や保護者の指示に従い行動できるようにするとともに、危険な状態を発見したときには教職員や保護者など近くの大人に伝えることができるようにする。

(2) 小学生

ア 低学年では、安全に行動することの大切さを理解し、安全のためのきまり・約束を守ることや身の回りの危険に気付くことができるようにする。また、危険な状態を発見した場合や事件・事故災害時には、教職員や保護者など近くの大人に速やかに連絡し、指示に従うなど適切な行動ができるようにする。

イ 中学年では、「生活安全」「交通安全」「災害安全」に関する様々な危険の原因や事故の防止について理解し、危険に気付くことができるとともに、自ら安全な行動をとることができるようにする。

ウ 高学年では、中学年までに学習した内容を一層深めるとともに、様々な場面で発生する危険を予測し、進んで安全な行動ができるようにする。また、自分自身の安全だけでなく、家族など身近な人々の安全にも気配りができるようにする。さらに、簡単な応急手当ができるようにする。

(3) 中学生

小学校までに学習した内容をさらに深め、交通安全や日常生活に関して安全な行動をとるとともに、応急手当の技能を身に付けたり、防災への日常の備えや的確な避難行動ができるようになる。

また、他者の安全に配慮することはもちろん、自他の安全に対する自己責任感の育成も必要である。さらに、学校、地域の防災や災害時のボランティア活動等の大切さについても理解を深め、参加できるようにする。

(4) 高校生

自らの安全の確保はもとより、友人や家族、地域社会の人々の安全にも貢献する大切さについて一層理解を深める。また、心肺蘇生法などの応急手当の技能を高め、適切な手当が実践できるようにする。さらに、安全で安心な社会づくりの理解を深めるとともに、地域の安全に関する活動や災害時のボランティア活動等に積極的に参加できるようにする。

(5) 障害のある児童生徒等

児童生徒等の障害の状態、発達の段階、特性等及び地域の実態等に応じて、自ら危険な場所や状況を予測・回避したり、必要な場合には援助を求めたりすることができるようにする。

3 安全教育の各領域の内容

(1) 生活安全に関する内容

日常生活で起こる事故の内容や発生原因、結果と安全確保の方法について理解し、安全に行動ができるようにする。

- ア 学校（園）生活や各教科、総合的な学習の時間などの学習時における危険の理解と安全確保
- イ 児童（生徒）会活動やクラブ活動等における危険の理解と安全確保
- ウ 運動会、校内競技会等の健康安全・体育的行事における危険の理解と安全確保
- エ 遠足・旅行・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事等学校行事における危険の理解と安全確保
- オ 始業前や放課後等休憩時間及び清掃時間等における危険の理解と安全確保
- カ 登下校（園）や家庭生活などにおける危険と安全確保
- キ 野外活動等における危険の理解と安全確保
- ク 事故発生時の通報と応急手当
- ケ 誘拐や傷害などの犯罪に対する適切な行動の仕方など、学校や地域社会での犯罪被害の防止
- コ 携帯電話やコンピュータ等の情報ネットワークの活用による犯罪被害の防止と適切な利用の必要性

サ 施設・設備の状態の把握と安全な環境づくり

(2) 交通安全に関する内容

様々な交通場面における危険について理解し、安全な歩行、自転車・二輪車等の利用ができるようにする。

ア 道路の歩行や道路横断時の危険の理解と安全な行動の仕方

イ 踏切での危険の理解と安全な行動の仕方

ウ 交通機関利用時の安全な行動

エ 自転車の点検・整備と正しい乗り方

オ 二輪車の特性の理解と安全な利用

カ 自動車の特性の理解と自動車乗車時の安全な行動の仕方

キ 交通法規の正しい理解と遵守

ク 運転者の義務と責任についての理解

ケ 幼児、高齢者、障害のある人、傷病者等の交通安全に対する配慮

コ 安全な交通社会づくりの重要性の理解と積極的な参加・協力

(3) 災害安全に関する内容

様々な災害発生時における危険について理解し、正しい備えと適切な行動がとれるようにする。

ア 火災発生時における危険の理解と安全な行動の仕方

イ 地震・津波発生時における危険の理解と安全な行動の仕方

ウ 火山活動による災害発生時の危険の理解と安全な行動の仕方

エ 風水（雪）害、落雷等の気象災害発生時における危険の理解と安全な行動の仕方

オ 放射線の理解と原子力災害発生時の安全な行動の仕方

カ 避難所の役割と避難経路についての理解、避難の仕方

キ 災害に関する情報の活用や災害に対する備えについての理解

ク 地域の防災活動の理解と積極的な参加・協力

ケ 災害時における心のケア

第2節 教育課程における安全教育

学校における安全教育は、以下のように教育課程の各教科・科目、道徳、特別活動等に位置付けられ、それぞれの特質に応じて適切に実施されるものである。なお、学校における安全教育には、「安全学習」の側面と「安全指導」の側面があり、主として取り扱われる教科・領域等は、図3に示したとおりである。なお、安全学習と安全指導は、重複無く明確に区別されるものではない。例えば、安全指導において、児童生徒が自主的活動を行うことや意志決定、行

発達の段階に応じた防災教育

- ア 自然災害等の現状、原因及び被災等について理解を深め、現在及び将来に直面する災害に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意志決定や行動選択ができる。(知識、思考・判断)
- イ 地震、台風の発生等に伴う危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動ができるようにするとともに、日常的な備えができる。(危険予測、主体的な行動)
- ウ 自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できる。(社会貢献、支援者の基盤)

高等学校段階における防災教育の目標

安全で安心な社会づくりへの参画を意識し、地域の防災活動や災害時の支援活動において、適切な役割を自ら判断し行動できる生徒

ア 知識、思考・判断

・世界や日本の主な災害の歴史や原因を理解するとともに、災害時に必要な物資や支援について考え、日常生活や災害時に適切な行動をとるための判断に生かすことができる。

イ 危険予測・主体的な行動

・日常生活において発生する可能性のある様々な危険を予測し、回避するとともに災害時には地域や社会全体の安全について考え行動することができる。

ウ 社会貢献、支援者の基盤

・事前の備えや災害時の支援について考え、積極的に地域防災や災害時の支援活動に取り組む。

中学校段階における防災教育の目標

日常の備えや的確な判断のもと主体的に行動するとともに、地域の防災活動や災害時の助け合いの大切さを理解し、すすんで活動できる生徒

ア 知識、思考・判断

・災害発生メカニズムの基礎や諸地域の災害例から危険を理解するとともに、備えの必要性や情報の活用について考え、安全な行動をとるための判断に生かすことができる。

イ 危険予測・主体的な行動

・日常生活において知識を基に正しく判断し、主体的に安全な行動をとることができる。
・被害の軽減、災害後の生活を考え備えることができる。
・災害時には危険を予測し、率先して避難行動をとることができる。

ウ 社会貢献、支援者の基盤

・地域の防災や災害時の助け合いの重要性を理解し、主体的に活動に参加する。

小学校段階における防災教育の目標

日常生活の様々な場面で発生する災害の危険を理解し、安全な行動ができるようにするとともに、他の人々の安全にも気配りできる児童

ア 知識、思考・判断

・地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し、安全な行動をとるための判断に生かすことができる。
・被害を軽減したり、災害後に役立つものについて理解する。

イ 危険予測・主体的な行動

・災害時における危険を認識し日常的な訓練等を生かして、自らの安全を確保することができる

ウ 社会貢献、支援者の基盤

・自他の生命を尊重し、災害時及び発生後に、他の人や集団、地域の安全に役立つことができる。

幼稚園段階における防災教育の目標

安全に生活し、緊急時に教職員や保護者の指示に従い、落ち着いて素早く行動できる幼児

ア 知識、思考・判断

・教師の話や指示を注意して聞き理解する。
・日常の園生活や災害発生時の安全な行動の仕方が分かる。
・きまりの大切さが分かる。

イ 危険予測・主体的な行動

・安全・危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動する。
・危険な状況を見付けた時、身近な大人にすぐ知らせる。

ウ 社会貢献、支援者の基盤

・高齢者や地域の人と関わり、自分のできることをする。
・友達と協力して活動に取り組む。

障害のある児童生徒等については、上記のほか、障害の状態、発達の段階、特性及び地域の実態等に応じて、危険な場所や状況を予測・回避したり、必要な場合には援助を求めることができるようにする。

本章では、第 2 章 P11 「発達の段階に応じた防災教育」の目標に準じて、各校種ごとの目標及び防災教育年間計画例、具体的な授業展開例を示している。目標の設定にあたっては、学校の立地環境や施設設備の状態、地域との関わりの状況や児童生徒等の実態等に応じ、適切に行われることが重要である。また、「発達の段階に応じた防災教育」の目標は、幼稚園から高等学校までを見据え、知識や技能の習得、意識や行動、態度等について、それぞれの校種の段階による指導が積み重ねられることによって達成されるものとして示されている。例えば、中学校の目標は幼稚園や小学校の目標が達成された上に設定されているのである。このことから、各学校において目標を設定する際には、児童生徒等が前学校段階や地域・家庭において身につけている防災に関する態度や知識・技能の程度（レディネス）を確認し、その実態に応じたものにすることが必要である。また、年間計画を作成する際には、教科等の年間指導計画、学区や都道府県・市区町村の防災に関する行事等との調整を図る必要がある。

各学校においては、本章の例を参考に、学校や地域の実情を踏まえた防災教育が展開されることが望まれる。

1 幼稚園

| | |
|--|----|
| (1) 防災教育年間計画例 | 52 |
| (2) 防災教育授業展開例 | 54 |
| ①日常生活の中で安全（防災）に関する意識や態度を高める指導 | 54 |
| ②地震発生時の危険等の理解を深める指導 | 57 |
| ③園外保育（防災の視点を示した計画案） | 59 |
| ④避難訓練「全園児一斉指導 地震後の引き渡し訓練」 | 62 |
| ⑤避難訓練「全園児一斉指導 地震発生から津波警報発表時の避難訓練」 | 71 |
| ⑥避難訓練「教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動における避難訓練（地震想定）」 | 75 |

2 小学校

| | |
|---------------|----|
| (1) 防災教育年間計画例 | 80 |
| (2) 防災教育授業展開例 | 82 |

| | | |
|------------------------|-----------|-----|
| ①安全なくらしとまちづくり | 社会科 | 82 |
| ②洪水の危険について知ろう | 理科 | 84 |
| ③もっとまちをしりたいね | 生活科 | 86 |
| ④けがを防いで簡単な手当ができるようになろう | 体育科 | 88 |
| ⑤わたしにできること | 道徳 | 91 |
| ⑥オリジナル防災マップをつくろう | 総合的な学習の時間 | 94 |
| ⑦わたしたちの地域の自然災害 | 総合的な学習の時間 | 96 |
| ⑧わたしたちのくらしと火山 | 総合的な学習の時間 | 98 |
| ⑨火事になったら | 特別活動 学級活動 | 100 |
| ⑩地しんが起こったらどうするの | 特別活動 学級活動 | 101 |
| ⑪休み時間に大地震おきたら | 特別活動 学級活動 | 103 |
| ⑫どうする？大雨だ、強風だ、かみなりだ | 特別活動 学級活動 | 105 |
| ⑬いざという時の備えは | 特別活動 学級活動 | 108 |
| ⑭町の中でぐらっときたら | 特別活動 学級活動 | 110 |
| ⑮火災を想定した避難訓練 | 特別活動 学校行事 | 112 |
| ⑯地震を想定した避難訓練（緊急地震速報） | 特別活動 学校行事 | 114 |
| ⑰津波を想定した避難訓練 | 特別活動 学校行事 | 117 |

3 中学校展開例

| | |
|----------------------------|---------------|
| (1) 防災教育年間計画例 | 120 |
| (2) 防災教育授業展開例 | 122 |
| ①自然と郷土 | 社会科 122 |
| ②自然の恵みと災害 | 理科 124 |
| ③自然災害による傷害の防止 | 保健体育科 126 |
| ④安全・安心な生活のための技術 | 技術・家庭科 128 |
| ⑤過去が光って見えるとき | 道徳 130 |
| ⑥総合的な学習の時間（防災教育）年間計画の例 | 総合的な学習の時間 132 |
| ⑦くらしの安全を守る（職場体験学習における防災学習） | 総合的な学習の時間 134 |
| ⑧災害後の暮らし | 特別活動 学級活動 136 |
| ⑨地震を想定した避難訓練（緊急地震速報） | 特別活動 学校行事 138 |
| ⑩校内避難訓練（竜巻への対応） | 特別活動 学校行事 140 |

4 高等学校展開例

| | |
|------------------------------|-----|
| (1) 防災教育年間計画例 | 143 |
| (2) 防災教育授業展開例 | 145 |
| ①自然環境と防災 地理歴史科 | 145 |
| ②日本の自然環境 理科（地学基礎） | 147 |
| ③応急手当の実践（心肺蘇生法を含む） 保健体育科 | 149 |
| ④安全に配慮した住生活 家庭科（家庭基礎） | 151 |
| ⑤学校が避難所となった時にできること 工業科（課題研究） | 153 |
| ⑥地域の災害と復興を考える 総合的な学習の時間 | 155 |
| ⑦地域と連携した複合的避難訓練 特別活動 学校行事 | 157 |

5 特別支援学校展開例

| | |
|---|-----|
| (1) 防災教育年間計画例及び障害のある児童生徒等の災害時に予想される困難と支援例 | 159 |
| (2) 防災教育授業展開例 | 164 |
| ①安全に一人通学しよう～災害(地震災害)時も安全に避難帰宅しよう～ 自立活動 | 164 |
| ②地震を想定した避難訓練 特別活動 学校行事 | 166 |
| ③地震を想定した避難訓練 寄宿舎避難訓練 | 168 |
| ④大地震に備えて 特別活動 学級活動 | 170 |
| ⑤地震及び火災を想定した合同避難訓練 特別活動 学校行事 | 172 |
| ⑥防災マップ作り（地域探検） 特別活動 ホームルーム活動 | 175 |
| ⑦地震に強い家にしよう（参観授業） 生活単元学習 | 177 |
| ⑧防災マルチパーティションの作成 美術科 | 179 |
| ⑨災害時の「ほうれんそう」～緊急時のコミュニケーション～ 自立活動 | 181 |
| ⑩全校児童生徒集会～防災をテーマとした地域との交流～ 特別活動 学校行事 | 183 |
| ⑪総合防災訓練 特別活動 学校行事 | 185 |
| ⑫地震・火災を想定した避難訓練 特別活動 学校行事 | 187 |